

# オーストラリアの医療

大澤美夕希

**要旨**：日本のかかりつけ医にあたるgeneral practitioner (GP) が支えるオーストラリアの医療体制は、高齢化が進む日本や雲南市の医療を変えるヒントになる。オーストラリアにGPが定着した理由を探った。オーストラリアでは、緊急時を除き、病气やけがで病院に行くには、まずゲートキーパーであるGPの診察を受け、専門医の治療が必要であれば専門医へ紹介され、必要がなければGPの処置で終わる。利点は、いつも同じ医師の診察、長年の信頼関係、その紹介で専門医を受診できる安心感、身体全てを診るための思いがけない疾患の指摘など、欠点は、専門医を受診できない場合の不安や不満、数ステップの治療時に専門治療毎GPへ戻る煩雑さなどである。日本では、GPにあたる総合診療医・家庭医か専門医かの選択が患者側にある反面、専門医に患者が集まり医療システムの効率が下がり、家庭医との関係が希薄になり易い。少子高齢化が進み、特に地方では、少数の医療スタッフで多くの患者を診て、医療システムの効率を上げる必要があり、GPへの期待が高まる。

**キーワード**：general practitioner (GP)、かかりつけ医、ゲートキーパー、医療システム

(雲南市立病院医学雑誌 2020; 16(2):81-85)

## はじめに

オーストラリアと聞くと、コアラ、カンガルーなどの動物たち、地球のへそと言われるエアーズロックなどが思い浮かぶだろう。真夏のサンタクロースと言う通り、多くの先進国とは季節が真逆である。そんな南の大国オーストラリアに、じつは日本の医療を変えるヒントがあった。かかりつけ医であるgeneral practitioner (以下、GP、表1<sup>1)</sup>) が活躍するオーストラリアは、総合診療のメッカであるかもしれない。

## オーストラリアの医療

GPが活躍するオーストラリア。この国ではどんな健康上の問題でも、まずはこのGP、いわゆるかかりつけ医に相談する。高齢化が進む日本の。東京の50年

後を体現していると言われる雲南市にいま必要とされている存在だ。オーストラリア国民にGPが定着した理由はなにか。ひょっとするとこれからの雲南市の医療につながるのではないか。オーストラリアの医療を探った。

## かかりつけ医～GP～の存在

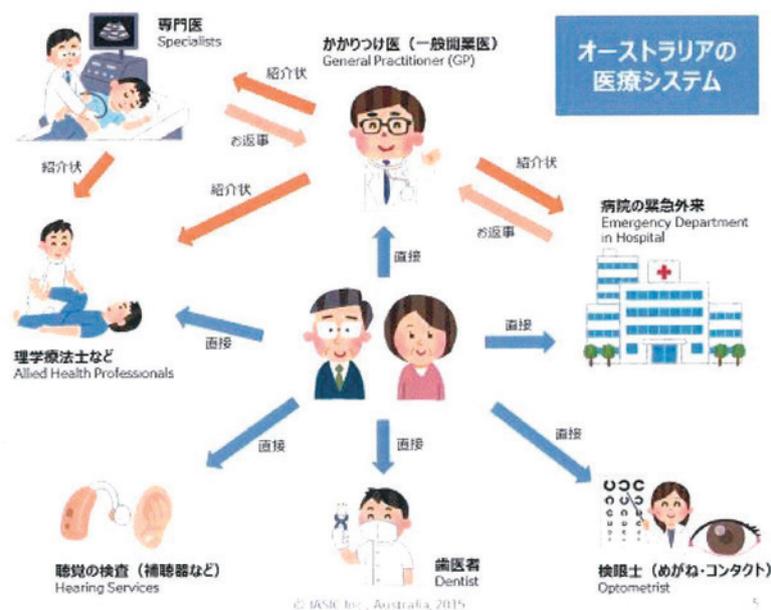
オーストラリアの医療を支えるのは、何と言ってもGPだろう。日本でいうところのかかりつけ医である。緊急の場合を除き、なにか病気に罹患したりけがをしたりして病院に行くときはまずGPのもとへ行く必要がある(図1<sup>2)</sup>)。GPの診察を受け、専門医の治療が必要と判断されると、GPの紹介状により専門医の診察、治療を受ける流れだ。もちろん、必要がない場合はGPによる処置のみで治療が終わることもある。お腹が痛く

表1 WONCA (World Organization of Family Doctors) Europe の家庭医療の定義 (文献<sup>2)</sup> から和訳改変)

## The European Definitions 2011

家庭医の規律として特徴的な点は

- a) 通常、健康の問題が起きた場合は医療システムの中で最初に相談を受け、誰でも制限なく医療を受けることができ、年齢や性別、患者の背景によらずあらゆる健康問題に対応する。
- b) 患者側に立ち、患者の思いを傾聴し、他職種と連携し、適切な専門医へ紹介することで、様々な側面からの治療において医療資源を効率よく活用する。
- c) 患者個人を尊重し家族や社会背景を考慮して患者を中心とした医療を提供する。
- d) 患者自身が自発的に活動できるようサポートする。
- e) 患者と長期にわたり関係性を築くことで、患者個人に適切な助言を行うことができる。
- f) 患者の希望に沿って長期の医療を提供する責任がある。
- g) 地域における疾患の有病率、罹患率を考慮した上で治療方針を決める。
- h) 個々の患者において急性期病変と慢性期病変を両方同時に管理する。
- i) 疾患の早期病変に対して治療を行い、時に早急な対応を必要とする。
- j) 健康と幸福のため適切で効果的な介入を行う。
- k) 地域の健康増進に対して責任がある。
- l) 患者の身体的、精神的、社会的、文化的、実在的な側面を考慮し対応する。



GP では 75 歳以上を対象とした健康チェック (ヘルス・アセスメント: Health assessment for people aged 75 years and older: <http://www.health.gov.au/internet/main/publishing.nsf/Con>)

図1 オーストラリアの医療システム (文献<sup>2)</sup> から転載、許可済)

なれば消化器内科、鼻炎になれば耳鼻科のような、日本の医療システムとは異なっている。オーストラリアで専門医の治療を受けるには、まずはかかりつけ医の診察が必要なのである。

## GPの利点、欠点

専門医に行く前にGPの診察を受ける利点は、まずはその存在の安心感だろう。どんな健康上の問題でも、「まずはGPのもとへ」という安心感がある。いつも同じ医師に診てもらえ、長年の付き合いで信頼関係を築

くことができ、その医師の紹介で専門医のもとへいくことができる。日本のように病気になるときに病院を選ぶ必要がない。また、身体すべてを診ることができるため、思いがけない疾患に気づくこともできる。直接専門医の診察を受けていたら、他の分野の疾患には気づかないかもしれない。GPの存在により、患者が適切な診療科で治療を受けることができ、また専門医の診察が必要でない場合はGPが処置を行うため効率も良い。では、欠点はなんだろう。患者が専門医の診察を希望する場合でも、必ずGPの診察を受けなければならず、さらにGPが専門医の診察は不要と判断した場合は、GPによる処置のみで終わってしまう。この場合、患者にはなんらかの不安、不満が残るだろう。あらゆることに融通の効きやすい、おおらかであるオーストラリア国民に比べ、常に確実を求める日本人の国民性には合わないのかもしれない。また、治療が数ステップに及ぶ場合、専門医の治療を受けるたびにGPのもとへ戻る必要があり、時間がかかるうえに煩雑である。しかし、ほとんどのオーストラリアの人々はこのGPの制度に賛成している。日本などの専門医制度よりも効率的で優れたものであると認識しているからだ。オーストラリアのGPにおける一番の欠点は労働環境である。彼らは専門医に比べ要求されることが多く労働時間が長い一方でその報酬は十分でない。専門医の発展に比べGPは成長が遅く、そのためすでに高い要求を受けているGPにさらにプレッシャーがかかる状態となっている。GPは専門医よりも少ない報酬で広い知識を持たねばならない。

### GPの歴史

では、なぜオーストラリアの医療においてGPが根付いたのだろうか。1770年、オーストラリアはイギリス人によって発見された。それからヨーロッパ人による植民地化が進み、先住民のアボリジニを虐殺した。オーストラリア最初の医師はイギリスの外科医と言われている。彼らは船医として働いていた。オーストラリアの多くの囚人が医療の発展のためという名目で犠牲となった。この医師たちが初期のGPの根源となった。オーストラリアで専門医が現れたのは医療がさらに発展した19世紀と言われている。つまりオーストラリアの医療はGPから始まり、それが現在まで根強く続いている。なぜなら、オーストラリア国民がこのGPの制度に賛同しているからだ。

### 日本のGPとの比較

日本での総合診療専門医、つまり家庭医がGPにあたる。健康上の問題が起きたときにはまず診察に行き、そこから専門の科へ紹介するという点では先述したオーストラリアのGPと変わりはない。しかし両国のGPの違いは、オーストラリアの彼らが「ゲートキーパー」と呼ばれているところに現れている。オーストラリアでは各診療科の診察を受ける際は必ずGPからの紹介が必要であり、専門医の治療が必要でない場合GPが判断した場合はGPによる処置で終了する。日本では必ずしも家庭医の診察を受ける必要はなく自身の判断で各診療科の診察を受けることができるが、オーストラリアでは必ず「ゲートキーパー」をパスしなければならない。この違いがオーストラリアのGPの利点であり欠点であるのだが、日本でより家庭医が広く活躍するためには重要なポイントである。日本では家庭医か専門医かの選択が患者側にある反面、専門医のもとに必要以上に患者が集まり医療システムの効率が下がり、また家庭医という存在があるにも関わらずその関係が希薄になってしまう。GPがゲートキーパーであることは、一見患者の選択が狭まるように見えるが、医療を必要とするところに必要な分だけ回し、そして生涯にわたり自分の健康を守ってくれるGPとの信頼関係を築くことができる。

### 高まる日本でのGPの需要

では、現在の日本の医療を振り返ってみよう。少子高齢化が進み地方では少数の医療スタッフで多くの患者を診る必要がある。そこでGPが登場する。すべての患者を診察し、必要な治療を施し、必要な患者だけを専門医のもとへ送る。患者が不必要な診察を受けなくて済む。医療システムの効率を上げるためには、GPの必要性が高まるのではないか。そしてその患者も高齢化が進んでいる。身体に異常が起こるたびに病院を選ぶ必要もない。長年の付き合いのあるGPのもとへ行くだけでいいのだ。今後の日本の医療にはGPの普及が最優先事項であると考えられる。特に高齢者の増えていく雲南などの地域医療最先端の場では、深く根付く存在になるのではないか。

### 引用

- 1) Commission of the WONCA European Council. 2. The European definitions 2011, the discipline and

specialty of general practice/ family medicine, Ed. Evans P, president WONCA Europe, and revised by a Commission of the WONCA European Council led by Mola E and Eriksson T. The European definition of general practice/ family medicine, WONCA EUROPE 2011 Edition. 2011, pp8-9.

2) 在豪邦人コミュニティーサポート (Japanese Australian Support in Community Inc., JASIC). 5.かかりつけ医 (General Practitioner: GP) .JASIC オーストラリアの医療ガイド. 第1版. ニュー・サウス・ウェールズ : JASIC ; 2017.p15.

## Medical service system in Australia

Miyuki Osawa

**Abstract:** The medical system in Australia supported by general practitioners (GP) could be the key to change that of Japan and Unnan whose population is aging rapidly. I searched why GP became familiar in Australia. When you want to see doctors in Australia, first you have to go to GP which is called “Gate Keeper” except in emergency. GP will introduce you to the specialists if it’s needed, or GP will undergo some medical procedures unless it’s necessary. The good points for patients are always being able to see the same doctor, getting familiar with him and being introduced to the specialists by his suggestion, but they may not be satisfied when they can’t see the specialists, or they have to see GP every time they want to get any new medical treatments. In Japan patients can choose GP or specialists, but usually so many people go to specialists that the medical system is inefficient and can’t get familiar with GP. Especially in suburbs the number of medical workers is reducing so more efficient medical system is needed, that’s why we really need GP for the future of Japan and Unnan.

**Key words:** general practitioner (GP) ; family doctor; gate keeper; medical system

---

Shimane University Faculty of Medicine

Correspondence: Miyuki Osawa, MD, Shimane University Faculty of Medicine [89-1 Enya-cho Izumo, Shimane 693-0021, JAPAN]

Telephone: 0854-43-2390 / Fax: 0854-43-2398

E-mail : hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp